

事業所名

夢のみずうみ村ぴかぴか（親子療育）

支援プログラム

作成日

2024年

2月

1日

法人（事業所）理念	こころとからだが動くためには「たのしい」が基本！ ～ぴかぴかのグループ支援は、社会性の基盤作りを目的としています。子どもの行動の意味と一緒に考え、親子が自分に合った方法で楽しめる体験をします～					
支援方針	☆親子の信頼関係（社会性の始まり）を築くお手伝いをします。 ☆子どもの発達段階を見極め、個性を大切にします。 ☆子どもの発達のエネルギーを引き出します。					
営業時間	月～金	8時	30分から	17時	30分まで	送迎実施の有無 あり なし
	支援 内 容					
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの心身の状態を細かく確認し、保護者と発達の過程・特性について共有しながら必要な対応と一緒に考える。 睡眠、食事、排泄等の基本的生活習慣を形成し、生活リズムが身につけられるよう家庭での生活状況を把握し相談援助を行う。 基本的生活スキルを獲得できるよう、保護者と時間や空間の構造化について話し合い、視覚的支援を使うことで「できた」経験を増やす。 					
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 親子で楽しく遊びながらサークル活動を行い、動きのつながりや体の使い方を取得できるよう支援する。 リズム活動では保護者との信頼関係を土台に、苦手な集団活動を理解し楽しく参加できる機会を提供する。 忍者ごっこ修行では「見る・手(先)を使う・走る(全身運動)・机上の作業」等、挑戦してできる運動・動作が増えるように支援する。 プール活動では、衣服の着脱やルールを守って参加をする。水の中での感覚刺激を楽しみながら、感覚調整力を高める。 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する感覚調整等の支援を行う。 					
本人支援 認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ひとりひとりの特性を理解し、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援する。 こだわりや偏食等に対する支援を行う。 視覚推理カードを使って、左右の区別や部分から全体を推理する視知覚機能を培い、視覚ワーキングメモリ・動物カードで「見て」「覚えて」実行する能力を培う。 視知覚ワーキングメモリ・図形カード・注意力カードを使い、重要な情報とそうでない情報を見分ける視知覚機能を培う。 アンガーコントロールカードでマイナス感情をプラス認知へと変えるスキルについて知り、ソーシャルカードでルールを音読をして実際に生活に生かす力を身につける。 「くやしい」「うれしい」など気持ちのカードを使い、感情の表現方法を発表することで、場面に合った言葉での伝え方を知る。 					
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や友達と遊ぶ中で、言葉のかけ方ややりとりの仕方を体験し積み重ねていく。具体的な内容を視覚的支援を使いながら子どもに伝えて、言葉と行動がつながる支援をする。 実際に「かして」「もう少し待ってね」など声をかける練習をしたり、保育所等での集団生活に生かす力を培う。 できるだけ多くの絵本に出会えるように工夫し、興味の幅を広げていく。 自分の気持ちを表現する機会を多く設定し、手を挙げて発言をしたり、作戦会議と称して仲間と話し合う機会を作りコミュニケーションの基本を学ぶ。 忍者ごっこでは「簡単ほうれんそう（報告・連絡・相談）」の練習を行い、困った時に人にアプローチがで問題を解決する力を育てる。 					
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 保護者がキーパーソンになり、1対1で会話をして「たのしかった」「できた」「ほめられた」などの実感を子どもと共有する。 「保護者と一緒に参加すると「気持ちいい」「うれしい」と感じる機会をつくり、親子のアタッチメント（愛着）の安定を培う。 自分の気持ちを言葉で伝えて保護者に受け止めてもらうことで、気持ちや情動の調整ができるように支援をする。 視覚的支援カードで集団活動・遊びに参加するための手順やルール等を保護者に読んでもらい、見て聞くことで理解して、楽しく参加できる力を身に付ける。 表情遊びを通して、他者の表情の基本をまなび、他者の気持ちを表す簡単な表情を理解できる力を培う。 「またまた」から始まり、人を意識することで鬼ごっこを楽しめるよう支援する。 ルールがある遊びを楽しみ互いの存在を認め合い、友達づくりや仲間意識を持てるよう援助する。 忍者ごっこ修行に取り組み、自分の得意や苦手を意識しながら保護者に支えてもらい「挑戦してみよう」と思う力を育てる。 					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が子育てに生かせるポイントを支援場面において具体的な方法で伝え、定期的に子どもの発達の特徴や成長を確認する。 毎週の家族支援プログラムやグループ相談においてそれぞれの保護者の思いや悩みを出し合いながら、自分らしい子育てを生み出していく。 保護者が愛着の役割を学び、子育てに生かし、親子の関係づくりに生かす工夫をする。 個別面談で家族（きょうだい）の相談を受け、困り感を軽減するために対応を一緒に考える。 					
移行支援	・小学校や入園先との移行会議や情報提供書の作成をすることで、スムーズな移行を支援する。 ・保育所等や併行利用している事業所との情報共有を行う。	地域支援	相談事業所、保育所等、併用利用事業所、通う予定の小学校、放課後等デイサービス、関係機関と担当者会等で連携を図る。			
職員の質の向上	・施設内研修（コンプライアンス・虐待防止・ハラスメント・感染症対策 非常災害・人権）発達クリニックはする開催の研修への参加 ・「愛着障害」についての研修の実施 ・毎日の支援の振り返りや職員間の共有	主な行事等	温水プール活動（通年） 忍者ごっこ（11月～3月） 避難訓練（年2回）			